

平成 24 年 6 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 24 年 6 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）
を取りまとめましたので、その概要を公表します。

【資料】

[平成24年6月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：日野原・伊藤・早川
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成 24 年 6 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成24年6月中の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

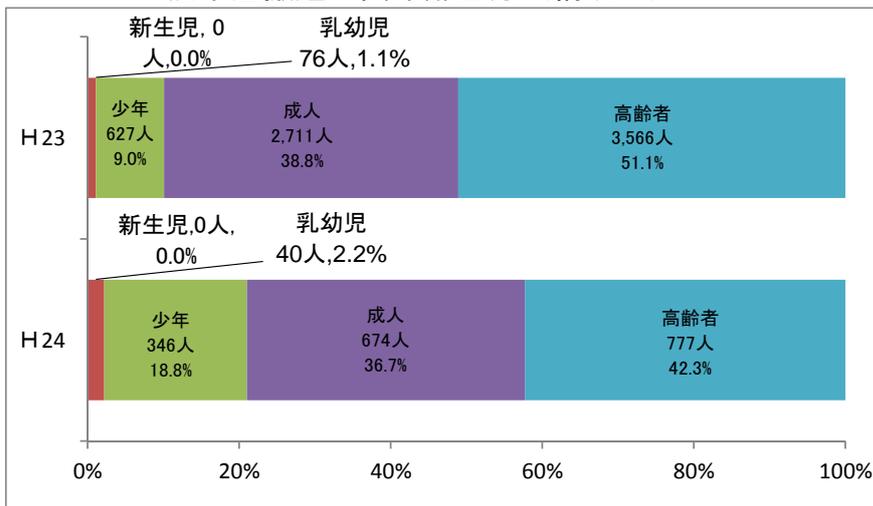
平成 24 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員は 1,837 人でした。

これは、平成 23 年 6 月の熱中症による救急搬送人員 6,980 人と比べて、73.7% 減少となっています。（集計 1、集計 2、集計 3 参照）

2 内訳

(1) 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 777 人（42.3%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）674 人（36.7%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）346 人（18.8%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）40 人（2.2%）の順となっています。（集計 1 参照）

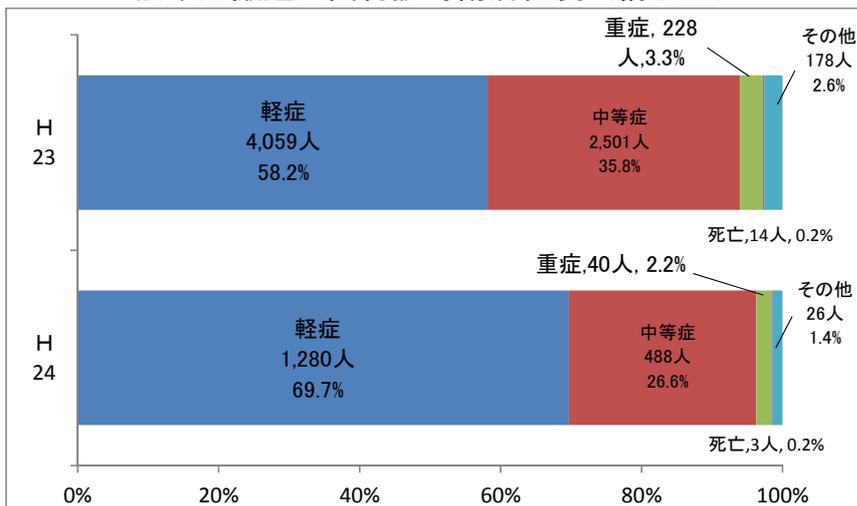
熱中症搬送人員年齢区分（構成比）



新生児：生後 28 日未満の者
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
 高齢者：満 65 歳以上の者

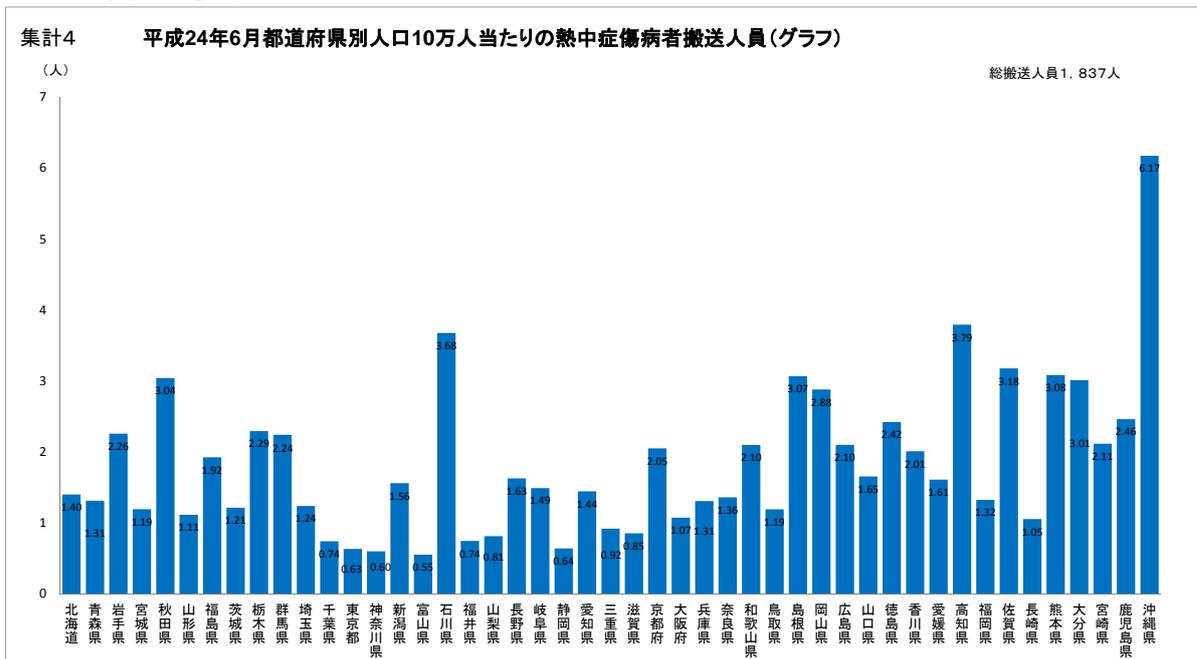
(2) 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 1,280 人（69.7%）、次いで中等症 488 人（26.6%）、重症 40 人（2.2%）、死亡 3 人（0.2%）の順となっています。（集計 1 参照）

熱中症搬送人員初診時傷病程度（構成比）



軽 症：入院を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

- (3) 都道府県別人口10万人当たりの熱中症搬送人員は、沖縄県が最も多く6.17人であり、次いで高知県3.79人、石川県3.68人の順となっています。(集計4参照)



3 その他

熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが重要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。

消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考(気象庁「6月の天候」より)

月前半は梅雨前線が日本の南海上に停滞し、上旬の中頃には台風第3号が沖縄付近を通過した。一方、北日本付近は北に偏った高気圧に覆われた。月後半は梅雨前線が本州付近に停滞し、台風第4号が19日に和歌山県南部に上陸した。また、21日に台湾付近で消滅した台風第5号に伴う暖かく湿った空気の影響で、梅雨前線の活動が活発となった。一方、北日本から東日本は周期的に北に偏った高気圧に覆われた。

気温は、西日本で日照時間が少なかった影響で低かった。また、北・東日本太平洋側ではオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で低温となった時期があった。一方、月末は高気圧が北日本付近を覆ったため、北海道を中心に高温となった。